



グアダルペの聖母御出現の物語
Nican Mopohua

カトリック・グアダルペ宣教会



グアダルペの聖母

この小冊子は、グアダルペ宣教会の来日五十周年を記念して日本語に翻訳され、その後修正されたものです。

△グアダルペの聖母御出現の物語△

この物語は、いと清き乙女、神の母聖マリアが、「テペヤク」、一のちに「グアダルペ」と呼ばれるようになつたーに奇跡的に出現された事実を記すものである。聖母は、まず、あるインディオの前に出現された。彼の名はホアン・ディエゴ。そして後に、その美しいお姿を、着座したばかりのホアン・デ・スマーラガ司教の前に現わされた。



*Acatlpoa quimottititzino ce
receptalzenchi nra lana Diego; Ahi gopren no-
mbrada de Cincuacatl. Lesa y puro panteon Chalpa
de Tlaxco tanta de Nauvanya. Ihuian amaxiitl ihu-
miquilli y quimachitollo —*



メキシコ語で書かれた原文

最初の「出発

1. 「メキシコ」という町が降伏してから十年経ち、人々が既に矢と盾を手放したことだつた。世には平和が満ちていた。
2. 草が芽吹き伸び行くように、信仰のつぼみが花開き始めた。それは人のいのちのみなもとであるまことの神を知ることを意味していた。
3. 時は一五三一年十二月の初め。村に一人の素朴で謙虚なインディオがいた。
4. 名はホアン・ディエゴ。聞くところによると、彼はクアウティトランに住んでいた。
5. しかし、信仰の面ではトラティロルコに属していた。
6. ホアン・ディエゴは、土曜日の朝まだ暗いうちに、神の呼びかけに応えるかのように出かけて行つた。

7・小さな丘テペヤクのふもとにたどり着くと、もう夜が明けていた。

8・すると、丘の上から沢山の美しい小鳥の声が、歌声のように聞こえてきた。鳥の歌声がやむと、丘もこれに応えて歌つた。その歌声は、コヨトトウルやチニンスカンのような美しい小鳥の声に勝るほど、やさしく心地よいものだつた。

9・ホアン・ディエゴは立ち止つて辺りを見まわし、驚きの声をあげた。

「私はあの歌声を聴くのにふさわしい男なのだろうか？　ただ夢を見ているだけではないのか？　夢が見えるだけではないのか？」

10・「ここはどこだらう？　私はどこにいるのだろう？　遠いご先祖様が、じいさまや、ばあさまが語り伝えたところなのだろうか？　花が咲く土地、私たちの身体の糧となるトウモロコシが実る土地？・・・まさか、天国ではないのか？」

11・見えるのは太陽の昇る小さな丘の頂、天からの美しい歌が聞こえてくる丘だつた。

12・ふと歌声がやみ、辺りは静まり返った。丘の上から私の名を呼ぶのが聞こえた。

「私のいとしい子ホアンよ、私の愛する息子ホアン・ディエゴよ。」

13・ホアン・ディエゴは声のする方へ思いきって行ってみた。何の疑いも、何の恐れもなく。とても楽しく幸せな気分でいっぱいだった。声のするところを確かめようと、ホアン・ディエゴは小さな丘を登つた。

14・丘の頂にたどり着くと、そこにたたずむ乙女と出会つた。

15・乙女はホアン・ディエゴに、近くに来るよう言つた。

16・乙女の前に進み出たホアン・ディエゴは、どんな賛美をもしのぐその気高さに見とれた。

17・その衣は太陽のようにきらきらと照り映え、

18・足もとの石や小岩は、射すくめるように輝いていた。

19・乙女はこの世で最も美しい宝石のように光り輝き、

20・地面は霧を照らす虹のように鮮やかだった。

21・メスキーテスやサボテンや辺りの草木はエメラルドのように、草の葉はトルコ石のよう
うに、幹や枝やトゲは金のように光り輝いていた。

22・その乙女の姿を前にホアン・ディエゴはひざまずいた。栄光と優しさに満ち溢れた声
で語りかけたことばを聞いた。強く魅かれ、崇めさせるお方だった。

23・乙女はホアン・ディエゴに言った。

「お聞き。わたしの子どもたちの中でいと小さき者ホアンよ、どこへ行くのですか?」

24・ホアン・ディエゴは答えた、

「高貴なお方よ。私はあちらの、メキシコのトラティロルコにあるあなたの家に参りま

す。神の代理者である神父様がたが教えて下さったように、神の教えを守るために行くのです。」

25・このような言葉を交わしてすぐに、乙女はその尊いみ心を開いて見せて、

26・こう仰せになつた、

「では、御覧なさい。固く信じなさい。わたしの子どもたちの中でいと小さき者ホアン
よ。私は終生けがれなき聖マリアです。人を創り、この国と天と地のすべてを創られ、
すべてを生かす、まことの神の中のまことの神の母です。この土地に私の聖なる家を
あなたたちのために建ててほしいのです。

27・その場所で人々に主イエス・キリストを示し、告げ知らせたいのです。

28・その愛と慈しみのまなざしと、助けるための救いの手を。

29・なぜなら、私は、本当にあなたがたの慈しみ深い母、

30・あなたやこの地に住む全ての人の母、

31・私を愛し、呼び、叫び、探し求め、私に信頼を置く多くの人々の母だからです。

32・私はこの場所で、すべての人の嘆きや悲しみを聞き届け、痛みやつらさ、慘めさをいやしましよう。

33・だから、愛と慈悲に満ちた私の願いが叶えられるように、メキシコの町の司教館に行きなさい。そして、私があなたを遣わしたこと、この野原に私の聖堂を建ててほしいというものが私の熱い願いであること、あなたが見たこと、感動したこと、聞いたこと、全てを司教様に話しなさい。

34・そうしてくれたら、私はそのことをあなたに感謝して、必ずそれに報いを与えることをお約束します。

35・私はあなたを豊かに満たし、ほめめたたえます。

36・あなたが捧げてくださるご苦労と、私の使者として遣わされる骨折りに対しては、十分に報いを与えるましよう。

37・愛し子よ、あなたは私の心の内を、私の言葉で聞きました。さあ、お願ひです。行つて、役目を果たして来てください。」

38・ホアン・ディエゴはすぐにお姿の前にひれ伏して言つた、

「私の尊いお方、私のいとしい乙女よ。私はあなたの尊い胸のうち、尊いみ言葉を果たしに参ります。では、あなたのしもべである小さいインディオは、ここでお別れを申します。」

39・ホアン・ディエゴは役目を果たすために丘を下り、メキシコの町へとまつすぐに通じる石畳の道にたどり着き、その道を進んで行つた。

40・町に着くと、そのまま司教館を訪ねた。司教はつい最近着座されたばかりで、その名

はホアン・デ・スマーラガといい、聖フランシスコ修道会の修道司祭だつた。

41・ホアン・ディエゴはすぐに司教に会おうと、門番や司教の召使たちに向かつて、司教に取り次いでくれるよう頼んだ。

42・長い間待たされ、やつと司教が中に入るよう命じた。

43・ホアン・ディエゴは中に入ると、すぐ司教の前にひざまずいて、天の元後の尊い胸のうち、尊いみ言葉、その依頼を打ち明けた。そして、自分が感動したこと、見聞きしたことの全てを話した。

44・司教は、そのいきさつと依頼の全てを耳にしてもそれを受け入れず、

45・こう言つた、

「我が子よ、今度来る時には、もっと落ち着いてお前の話を聞こう。そのときに、あなたが訪ねてきた理由や望みが何なのかをはじめから考えてみよう。」

46・ホアン・ディエゴは司教館を去った。役目をすぐには果たせなかつたので悲しかつた。



天使たちに導かれたホアン・ディエゴ

二度目の御出現

47・戻ると、日は暮れかけていた。ホアン・ディエゴは丘の頂に向かつてまつすぐに進んだ。

48・ホアン・ディエゴは天の元后と再会できて喜んだ。初めてお姿を現わされたその場所で、聖母は待つておられたのだ。

49・聖母のお姿が見えるとすぐに、ホアン・ディエゴはみ前で地面にひれ伏して言つた。

50・「親愛なる天の元后、私の最も愛するお方よ。あなたの優しい胸のうち、優しいみ言葉が叶うために、お命じになつた方の所へ行つてまいりました。司教館に何とか入れてもらつて司教様にお目にかかり、あなたの胸のうちとあなたのみ言葉を、あなたのおつしやつた通りにはつきりとお伝えしました。

51・司教様は私を優しく迎え入れ、お話をよく聞いてくださいました。しかし、お答えの様子では、私の言うことがよく分からず、信じていただけませんでした。

52・そして、『また来なさい。そうしたら落ち着いて聞こう。あなたが訪ねてきた理由と望みは何かを知りたいのだ』とおつしやいました。

53・私には司教様のお気持が分かりました。ここに家を建てたいというお望みは、私の口からでのまかせの話であり、あなたのみ言葉ではないと思われたのでしょうか。

54・親愛なる天の元后、私の最も愛するお方よ。どうかお願ひです。貴族や名士のどなたか、世に知られ、尊敬され、誉れ高い方に、あなたの優しい胸のうちを明かし、お言葉をかけ、このお役目をお頼み下さい。そのほうが信用されますから。

55・私はただの田舎者。しょいこ背負子やその紐のよう取るに足りない卑しい者。私自身も背負われて、お導きが必要な身です。野を越え、山を越え、私を遣わされたあの場所は、

私のような者が行つたり、留まつたりする場所ではありません。親愛なる天の元后、私の最も愛するお方よ、

56・どうかお許しを。あなたの顔を、み心を悲しみで曇らせてします。私はあなたの怒り、悲しみにうちひしがれています、ああ乙女よ。」

57・汚れなき乙女、譽めたたえられ、敬うやまわれるべき方は仰せになつた。

58・「お聞きなさい、わたしの子どもたちの中でいと小さき者よ。確かに、私の胸のうちや言葉を成し遂げることのできるしもべや使いの者は少なくはありません。

59・けれど、あなた自身が行つて、願い、取り次ぐことによつて、私の望みや思いが叶えられることがどうしても必要なのです。

60・だから私はあなたによくよくお願ひします。わたしの子どもたちの中でいと小さき者よ。はつきりと命じます。明日もう一度司教に会いに行つてください。

61・『聖母マリアからです』と司教様に知らせなさい、私の望み、私の意志を知らせなさい。

私の願いを実現し、私の望みである聖堂を建てるために。

62・さあもう一度、『永遠の乙女マリア、神の母である方が私を遣わしたのです』と司教様に言いなさい。』

63・そこでホアン・ディエゴはこう申し上げた。

「親愛なる天の元后、私の最も愛するお方よ、あなたの顔とみ心を悲しみで曇らせはいたしません。喜んであなたの胸のうちとみ言葉を伝えましょう。何があろうとやります。遠い山道も何も苦にはいたしません。

64・私はあなたの思いを果たしに参ります。でも、司教様は聞いてくれないかもしません。たとえ聞いてくれても、信じてもらえないでしよう。

65・明日の夕方、日が沈む頃、あなたのみ言葉、胸のうちにに対する司教様のお返事をもらつ

て参ります。

66・では慎んでお別れいたします。親愛なる天の元后、私の最も愛するお方よ、おやすみなさい。」

67・そして、ホアン・ディエゴも休むために家に帰つて行つた。

68・翌日の日曜日、まだ夜明け前の薄暗い中、ホアン・ディエゴは家を出てトラティロルコに真っ直ぐ向かつた。神様の教えを聞きに行つて、出席をつけてもらつた。

69・司教館に向かう用意が出来たのは10時頃だった。ミサに出席し、台帳につけてもらうと、集まつた人々は思い思いに帰つていつた。

70・そこでホアン・ディエゴは司教館へ向かつた。

71・司教館に着き、何とかして司教に会おうと努め、ようやく再会できた。

72・司教の足元でひざまづき、天の元后のみ言葉、胸のうちを明かしているうちに、ホア

ン・ディエゴは感情がこみ上げてきて涙を流した。

73・そして、自分に託されたこの使命を信じて欲しい、汚れなき乙女が望まれる地、その選ばれた地に、聖堂を建てて欲しいという乙女の胸のうちを信じて欲しいと願った。

74・司教はホアン・ディエゴにいろいろな質問をして調べた。どこで見かけたのか、その姿はどのようであつたかなど詳しく尋ねた。ホアン・ディエゴは司教の質問に一つひとつ丁寧に答えた。

75・ホアン・ディエゴは見て感動したそのままを細かく伝え、その方こそ汚れなき乙女、優しく美しい救い主イエス・キリストのみ母だと分かつたことを話した。

76・しかし、それでも司教からは信じてもらえなかつた。

77・司教は、彼の話だけでは願いを聞き届ける訳にはいかないこと、

78・そして、天の元后がなぜホアン・ディエゴを遣わしたのかについて何か別の証拠が必

要だ、と言つた。

79・それを聞くなりホアン・ディエゴは司教に言つた。

80・「司教様、お求めの証拠とはどのようなものでしようか。すぐに行つて、私をここに遣わされた天の元后に、その証拠を示してくださいよお願いします。」

81・司教は、ホアン・ディエゴが確信をもつていて、何も疑つていないことを見てとり、帰るようになつた。

82・ホアン・ディエゴが出ていくと、司教は司教館の信頼のおける者たちに、ホアン・ディエゴの後を付け、どこへ行き、誰に会つて話すのかをよく見届けるようにと指図した。

83・そのようにすべてが運んだ。ホアン・ディエゴはまつしぐらに石畳道を歩いた。

84・後を付けた人々は、テペヤク近くの谷にある木の橋の辺りでホアン・ディエゴを見失つてしまつた。あちこち捜しても、どこにも姿はなかつた。

85・ついに皆は、司教館に戻った。すっかりうんざりし、思い通りに行かなかったことに腹を立てていた。

86・そこで司教の所へ行き、「ホアン・ディエゴを信用なさいませんように。彼は嘘をついていて、言つたことはすべて作り話で、夢か空耳に違いありません」と告げた。

87・さらに、もしホアン・ディエゴが戻ってきたら、二度と嘘をついたり^{だま}騙したりすることのないように捕えて厳しく罰つてしまおうと決めた。



聖母に派遣されたホアン・ディエゴ

三度目の御出現

88・ちょうどその頃、ホアン・ディエゴは清き乙女の傍かたわらで、司教の返事を伝えていた。

89・聞いていた聖母は仰せになつた、

90・「よろしい、我が子よ。明日ここに来てください。求められた証拠を差し上げますから、司教様に持つて行きなさい。

91・それであなたを信じることになるでしょう。このことでもう迷つたり、疑つたりはしないでしよう。

92・それから、わが子よ、覚えておきなさい。私に対する心遣い、苦労、骨折りには報いを与えます。

93・さあ、行きなさい。明日、ここで待っています。」

94・明くる日の月曜日、ホアン・ディエゴは司教に信じてもらうための証拠を取りに行かなければならないのに、彼はそこへは戻らなかつた。

95・というのも、前日家に帰ると、伯父のホアン・ベルナルディーノが重い病にかかっていたからだ。

96・ホアン・ディエゴは医者を呼びに行つたが、もう手遅れで重態だつた。

97・夜になると、伯父はホアン・ディエゴに頼んだ。

「夜が明ける前に、暗いうちに出かけて、トラティロルコの神父様を呼んで来ておくれ。赦しの秘跡をして最期の準備をするために」と。

98・伯父は、もう死ぬ時が迫つていることをはつきり分かつていて。もう一度と起き上がり、治る見込みもないと感じていたのだ。

四度目の御出現

99・火曜日、まだ暗いうちに、ホアン・ディエゴは伯父の家を出て、トラティロルコへ神父を呼びに行つた。

100・丘のふもとに近づくと、日の沈む方向に道が延びていた。前に通つた道だ。ホアン・ディエゴはつぶやいた。

101・「もし道をこのまま進んだら、あの高貴な方のお目にとまつてしまうだろう。この前のように、司教様へ証拠を持つていくようになるとお引き止めになるに違いない。

102・まずはこちらの心配事を先に片付けるためにも、急いで神父様を呼びに行こう。伯父さんがひたすら帰りを待つていてるのだから」。

103・ホアン・ディエゴはすぐに丘を回り道した。丘を半分まで登つて横切り、日の出る方向

へ向かった。メキシコの町に早く着くため、天のお后に引き止められないために。

104・回り道の辺りなら、全てを一覽になるあの方にさえも、見つかりはしないだろうと思つた。

105・ところが、聖母が丘を下るところをホアン・ディエゴは見た。聖母は前に出会つた時から、ずっと彼の様子を見守つておられたのだ。

106・聖母はホアン・ディエゴに会うために丘を下り、行く手をさえぎり、こう仰せになつた。

107・「どうしたのです？わたしの子どもたちの中でいと小さき者よ。どこへ行くのです？」
どこへ向かうのです？」

108・ホアン・ディエゴは少し気がとがめたのか、恥じたのか、それともびっくりして怯えたおびえたのか、

109・聖母の前にひざまずき、挨拶し、そのわけを話した。

110・「私の最も愛する小さきお方よ、ご機嫌いかがですか。良いお目覚めでしたか？お元気ですか？」乙女よ、私の愛するお方よ。

111・あなたのお顔を曇らせ、み心を悲しませることになりますが、よくないお知らせをしなければなりません。私の愛するお方よ、あなたのしもべであるわたしの伯父の具合がとても悪いのです。

112・重い病で、あとは死を待つばかりです。

113・それで今、メキシコにあるあなたの家である教会へと急いでいます。伯父が赦しの秘密をしてから最期の準備をするために、神に愛されている私たちの神父様をお迎えに急いでいます。

114・なぜなら、私たちは、生きることの代償として、生まれた時から死を免れることはでき

ないのです。

115・この役目を果たした後で、ああ私の愛する方よ、あなたの胸のうちとみ言葉を伝えるために、私はまたここに戻つて参ります。

116・お赦し下さい。もうしばらくのご辛抱を。決して嘘は申しません。私の最も愛する小さな方よ、明日には必ず大急ぎで戻つて参ります。」

117・ホアン・ディエゴの言い訳を聞かれると、憐れみ深い汚れなき乙女はお答えになつた、
118・「わたしの子どもたちの中でいと小さき者よ、よく聞いて心に留めなさい。恐れ、悩むことは何もありません。顔を曇らせたり心を乱したりしてはなりません。この病、そしてほかのどんな病、痛み、苦しみも怖れてはなりません。

119・あなたのお母さんはここにいるではありませんか。あなたは私のご保護のもと、覆いの中にいるのですよ。私はあなたの喜びの泉ではないのですか？　あなたは私のマン

トにくるまつて、私の腕の中にいるではないですか？さらに何が必要というのでしようか？

120 ほかの何もあなたを悩ませたり、心を乱したりはしません。伯父さんの病気のことでの悲しんだり、うちひしがれたりしないようにしなさい。今は伯父さんはこの病気で死ぬことはありません。もうよくなつていると確信しなさい。」

121 (まさにその時、伯父の病気が治つたことが、後日知らされた。)

122 天の元後の優しいみ言葉、胸のうちを聞くと、ホアン・ディエゴの心は深く慰められ、平穏な気持ちになつた。

123 そして、司教に信じてもらうため、何か証拠を今すぐにくださいと聖母に願つた。

124 天の元后は、前にお会いしたあの丘の頂に登るようにお命じになつた。

125 「私の愛するいと小さき者よ、丘の頂に登りなさい。前におまえが私に出会い、私が命

じたところへ。

126 そこにはいろいろな花が咲き乱れています。それを摘んで集め、ひとまとめて、ここまで持つて降りて来なさい。私の前に花束を運んで来なさい。」

127 ホアン・ディエゴは丘を登つた。

128 丘の頂に着くと、なんとまだその季節でもないのにたくさん花が咲いていた。美しい様々な花が満開だった。ホアン・ディエゴは大変驚いた。

129 霜が降りるほど寒さの厳しい季節だったからだ。

130 あたりには、柔らかなよい香りが漂っていた。夜露が美しい真珠のように溢れていた。

131 そこで、ホアン・ディエゴは花を摘み集めて、マントの懷に包みこんだ。

132 その丘の頂は、花が育つような場所ではなかった。岩やアザミ、茨やサボテンばかりだった。

133・もし何か小さな草が生えたとしても12月。霜にうたれ、枯れてしまう時期だった。

134・その後、ホアン・ディエゴは摘み取った花々を持って降りて行き、天の乙女のところに運んだ。

135・聖母は花をご覧になると、尊い御手で花を持たれ、

136・彼のマントの中でもう一度花束にまとめて仰せになつた。

137・「私の愛するいと小さき者よ、このたくさんの花がなによりの証拠です。司教様に持つて行く証拠の花です。

138・私からの言葉を伝えなさい、『この花の中に私の希望をご覧になつて、私の望みと思ひを果たしてくださいますように』と。

139・あなたは私が遣わす者、あなたを心から信じています。

140・ぐれぐれも言つておきますが、司教様の前でだけあなたのマントを広げ、持つている

ものをお見せしなさい。

- 141・そしてすべて正確に話しなさい。丘の頂に登つて花を摘むように私が命じたことや、あなたが見たこと、驚いたことの一つひとつを司教様に話すのです。

- 142・私が望んでいる聖堂を全力を尽くして建設してくださるように司教様を説得しなさい。

- 143・天の元后のご命令を受けるとすぐ、ホアン・ディエゴは弾む心でメキシコの町に通じる石畳道をまっすぐに進んだ。

- 144・今度はうまくいくだろうと気持ちも晴れやかだった。

- 145・中のものがこぼれ落ちないように、マントの中のものによく注意を払つて、

- 146・きれいな花の香りを楽しみながら歩いた。



カスティーヤのバラを受け取るホアン・ディエゴ

御姿のしるし

147 司教館に着くと、門番や召使いたちが出てきて彼を見つけた。

148 ホアン・ディエゴは、司教様にお会いしたいと取り次ぎを依頼したが、誰も相手にしてくれなかつた。それは、彼の話すことの意味が分からぬふりをしたのか、それとも夜明け前だつたからだろうか。

149 あるいは、誰なのかは知つていたが、煩わしく面倒なだけと思つたからなのだろうか。

150 それに、かつてホアン・ディエゴの後を付け、姿を見失つてしまつたと仲間からも話を聞いていたからだろうか。

151 長い間ホアン・ディエゴは返事を待つた。

152 首をうなだれて立つたまま、呼ばれるまでのとても長い時間、じつと待つてゐるホア

ン・ディエゴ。見ると、何かをマントに入れている様子だつた。そこで皆は、ホアン・ディエゴの持つているものを見て、何を持つているのかを確かめようと近寄つた。

153 ホアン・ディエゴは持ち物を隠し切れないと思つた。小突かれ、追い出されではいけないと思つて花を少しだけ見せた。

154 その花を見ると、季節に見合わないみどりとな色、みずみずしさ、咲き誇るさま、香りの芳しさ、美しさに皆はすっかり見とれてしまつた。

155 そして、何本か撫みとろうとし、

156 三度も奪おうと試みたが、どうしても果たし得なかつた。

157 取ろうとすると花は現実のものではなくなり、マントの内側に描いたか、刺しゅうしたか、あるいは縫い付けたかのように変わつたのだつた。

158 そこで、召使いたちはすぐに、見たことを司教に知らせに行つた。

159・前にも来たインディオが司教様に会いたいと言つて、長い間そこで会う許しを待つて
いる。

ただ司教様にお会いしたいと言うだけだと伝えた。

160・司教はそれを聞くなり、自分を納得させるための証拠、つまり、あの男の頼みを自分が
果たすための証拠を持つてきたに違いないと気がついた。

161・司教は、会うので通すようとすぐに命じた。

162・ホアン・ディエゴは部屋に入ると、以前と同じように司教の前にひれ伏した。

163・それからまた、見たこと、驚いたこと、聖母のお告げの内容を司教に話し、

164・そして言つた。「司教様、私はお言い付け通りお約束を果たしました。

165・あなたは、私を信用することができるための証拠を求められましたので、私はお仕え
するお方の処へ、天の乙女聖母マリア、主のみ母の元へ行つてお話して参りました。

聖堂をお望みの地 に建てるようにとのお言葉の証拠が必要だとお話ししました。

166・また、司教様のご指図で、何か証拠となるもの、マリア様の思いを伝えるための証拠をあなたのところに持ち帰る約束をしたことも、マリア様にお話しました。

167・マリア様は、司教様の胸のうちとそのお言葉に耳を傾けられ、ご自分の思いが果たされるように証拠の求めに喜んで応えられました。

168・そして『まだ夜のうちに出かけ、司教様にもう一度お会いするように』とお命じになりました。

169・そこで、司教様に信じてもらうための証拠の品をお願いしました。『あげましょう』とおっしゃり、たちまちその通りになさいました。

170・マリア様は、前にお会いした小さな丘の頂に登るように、そこで色とりどりのカステイーヤのバラを摘むようにとおっしゃいました。

171 私は花を摘みに登り、持つて降りてくると、

172 マリア様は尊い御手に花束を受け取られ、

173 私のマントの中に揃えて置かれました。

174 花束を司教様にお持ちして、直接お手渡しするためでした。

175 あの小さな丘の頂は花が咲くような所ではないこと、あそこは岩山やアザミ、茨やサボテンばかりだということはよく知つてはいましたが、私は疑いもためらいもしました。

んでした。

176 丘の頂にたどり着くとそこは天国でした。

177 本当にきれいな、色々な種類の花がありました。この世で一番美しい、露を含んだすばらしい花の眺めでした。そこで、私はすぐに花を摘んで行きました。

178 マリア様は『この花束を、私からあなたに渡しましょう。私があなたに信頼され、あな

たがこの花をこちらになつて自分が求めていた証拠のしるしだと信じるように。そして、その尊いみ旨を実行することができるよう。』とおっしゃいました。

179・私の言葉、私がお伝えしている言葉は真実です。

180・これがその花です。どうかお受け取りください。」

181・ホアン・ディエゴは、懷に花束を抱えていた白いマントを開いた。

182・すると、色々な種類の美しい花々が床にこぼれ落ちた。

183・マントには、みるみるうちに汚れなき乙女、神の母聖マリアのお姿が、いま私たちが見ているそのお姿が、大いなるしるしとなつて現れた。

184・そのお姿は、『自分の住まい、大切な家、今ではグアダルペと呼ばれているテペヤクにある聖堂に大事に保管されている。

185・それを見るなり、司教と居合わせた人々は皆、ひざまずき、心から崇敬した。

186・お姿を見ようと立ち上がり、驚き、心を動かされ、悲しみを覚えた。

187・司教は、聖母のみ心、胸のうち、お言葉をすぐに果たさなかつたことの赦しを、涙と悲しみのうちに乞い願つた。

188・そして立ち上がり、ホアン・ディエゴの首に巻かれていたマントの結び目をほどいた。

189・そのマントに天の元后は姿を現わされ、そのお姿はしるしななつてマントに残された。

190・司教はそれを大事に抱えて自分の礼拝堂に運び、安置した。

191・そしてホアン・ディエゴを引き止め、司教館で丸一日を過ごさせた。

192・翌日、司教はホアン・ディエゴに言つた。

「さあ、天の元后がそこに聖堂を建てるようお望みになつたという場所を教えておくれ。

193・すぐさま聖堂を建てよう」と人々に呼びかけられた。

194 ホアン・ディエゴは、聖堂を建てるよう天の元后が命じた場所を示すと、すぐに暇乞いいとまごをした。

195 伯父のホアン・ペルナルディーノが気がかりで家に戻りたかったからだ。伯父が赦しの秘跡を受けて、最期を迎える準備のため、トラティロルコへ神父を呼びに出かけた時、病はひどく重かつたが、天の元后はもう治つたと仰せになつていた。

196 人々はホアン・ディエゴを一人で行かせず、家まで付いて行つた。



ホアン・ディエゴのマントに出現されたグアダルペの
聖母の御姿を拝見するスマーラガ司教

五度目の御出現

197 家に着くと伯父はもうすっかり良くなつていて、どこにも痛みはまつたくなかつた。

198 伯父は、甥が人々に伴われて丁重に扱われている様子を見てとても驚いた。

199 一体なぜそんなことになつたのか、なぜ人々がホアン・ディエゴを讃め称えているのかと伯父は甥に尋ねた。

200 そこでホアン・ディエゴは答えた。

「伯父さんの赦しの秘跡と最期を迎える支度のために神父様を呼びに出かけた時、テペヤクで天の元后がお姿を私の前に現わされ、

201 メキシコの町へ遣わされたのです——司教様にお会いし、テペヤクに聖堂を建てるためには。」

202・その時に聖母が、『心配しないように、伯父様はもう良くなっています』とおっしゃったのを聞き、とても安心したことを話した。

203・すると伯父は、「それは本當だ、ちょうどその時に聖母が私を治してくれたのだよ。

204・甥の前に現れたのと同じお姿を見たのだ」と言い、

おっしゃったこと、

205・『ホアン・ディエゴには、司教様に会うためにメキシコの町へ行かせました』と聖母が
おっしゃったこと、

ました』とおっしゃったこと、

206・さらに、『ホアン・ディエゴには、司教様に会つたら見たことをすべて告げるよう命じ

ました』とおっしゃったこと、

207・病を治して下さったすばらしい様子などを話した。

208・さらに、尊いお姿を、『汚れなき乙女、グアダルペの聖母マリアと呼ぶように』とおっ
しやいました。

209 それから人々は、伯父・ホアン・ペルナルディーノを、司教の前で証言させるために連れて行つた。

210 司教は、ホアン・ベルナルディーノと甥のホアン・ディエゴを数日間司教館に泊まらせ、

211 その間に、聖母マリアがホアン・ディエゴの前に出現されたテペヤクの地に、天の元後の聖堂が建てられ始めた。

212 司教は、この尊い天の元后のお姿をその大切な聖堂に移した。

213 司教は、誰もがそのお姿を見て崇敬できるように、自分の司教館の礼拝堂から運び出した。

214 町中の誰もがその美しいお姿を見て感動し、崇敬した。
215 誰もがその神々しさを認め、

216

そこで祈るために来るようになり、

217

その聖母の奇跡的な出現に感動した。

218

なぜなら、この地上の人間は、誰もその尊い姿を描くことはしなかつたのだから。

完

訳者注

この翻訳は、メキシコ語で書かれた原文を一九七八年にマリオ・ロハス・サンチエス神父が現代スペイン語に翻訳したもののもとにして、二〇〇五年にイグナシオ・マルティネス神父と中西久氏が日本語に共訳し、さらにその日本語訳に修正を加えたものです。

二〇一二年一月十四日

(シスター 坂本久美子)

カトリックグアダルペ宣教会

日本管区本部

〒106-0044

東京都港区東麻布 2-13-6

☎ 03-3583-5182

FAX 03-3583-5194

編集者 アントニオ・カマチヨ

発行所 グアダルペ宣教会管区

2006年 4月16日 復活祭 初版発行

2025年12月12日 グアダルペの聖母 初版2刷



聖ホアン・ディエゴ